



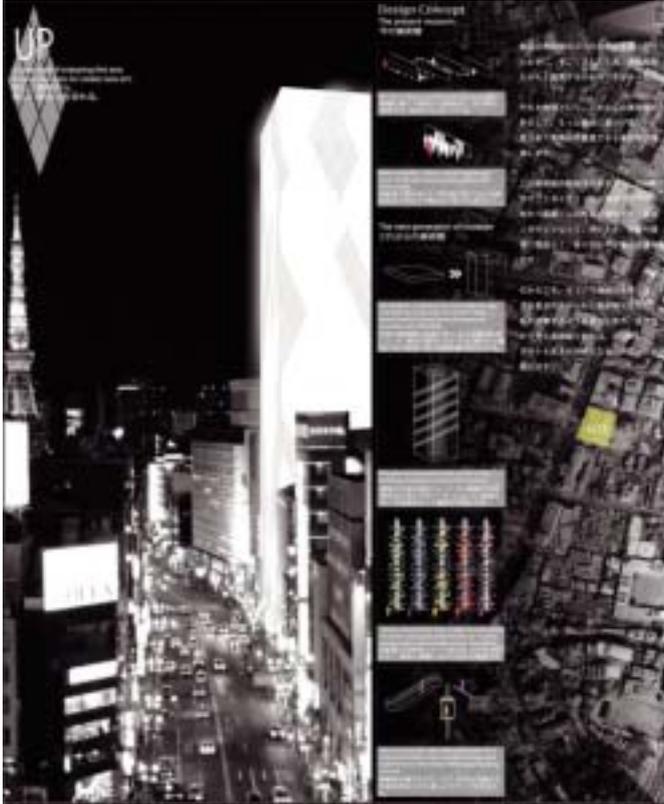
Up

奨励賞

T JUNG IFANA (ちゃんいふあな)

日本大学 生産工学部 建築工学科

特別審査員賞



新国立美術館のゴッホの展示を観に行った時、とても混雑していたため、美術品をしっかりと鑑賞することができなかった。

そのことを発想の原点とし、これからの美術館のかたちとして、もっと自由に自分が観たいと思うかたちで美術品を鑑賞できる美術館をここに提案します。

この美術館の敷地は六本木です。六本木は非常にダイナミックな場所であり、下町かつ高層ビルの建ち並ぶ場所です。日本人だけではなく、外国人、年齢や国籍に関係なく、多くの人々が集まる場所です。

だからこそ、このような場所に、今までのような鑑賞の方法が決められた美術館ではなく、私が提案するような自由な観方、巡り方ができる美術館であれば、受け皿としての空間構成と機能は勿論、次世代の新しいアートも創造されるのではないかと考えます。

講評

ひと際目立つ綺麗な模型である。作者は既に個性的な美術館が林立する東京都港区六本木に高層建築の美術館を計画した。それは縦方向に回遊する来館者に自由な視点を提供する事で居場所さえも定め挿せないという作者の意図から推するとギャラリー（回廊形式）の複合体がEV・エスカレーター・階段というエレメントを得て、垂直方向に増殖しているかの様だ。

この作品はグッゲンハイム美術館（F・L・ライト）などよりずっと自由度と開放性を内包しているかも知れない。その上で綿密にフロアーを計画されている。ただ視点が強要されている美術品のスペースや、動線を誘導する為の仕掛け・ブースの位置決めなどの理由を聞けないのがとても残念だった。しかし作品名「UP」に象徴された美しい外観と、動きのある内観は完成度の高い作品に仕上がっている。（審査委員：山下 勲）